

## 学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-042

名前：新林 舜涼

学会名：第 41 回日本診療放射線技師技術大会

開催場所：福井県福井市

- AOSSA
- ハピリン
- コートヤード・バイ・マリオット福井

開催期間：9 月 12 から 14 日

発表セッション名：放射線治療 4（運用） 放射線治療提供体制の均てん化に対する地理的評価

発表形態：口述発表

発表日時： 9 月 14 日 10 時 40 分

### 1. 発表の概要

#### ①目的と目標

がん医療の均てん化が推進される中、2012 年より医療人材と医療機能の確保を目的に集約化が加えられた。現状の放射線治療提供体制の均てん化状況を可視化し評価したので報告する。

#### ②方法

放射線治療施設、人口統計、がん罹患データより放射線治療提供体制を評価するとともに QuantumGIS を用いて地図上に可視化した。

#### ③結果及び考察

全国の二次医療圏に対して、放射線治療施設は約 80%、定位放射線治療実施施設は約 58%、強度変調放射線治療実施施設は約 50% の設置状況であった。また、放射線治療施設および高精度放射線治療実施施設は都市部に集中しており、それ以外では通院による受療は厳しい状況であった。

放射線治療施設が多い都市部においても、1 施設あたりのがん患者数が多いことから、施設の配置不足の可能性が示唆された。

#### ④まとめ

放射線治療施設の配置不足の可能性と地理的偏在が明らかになり、集約化との両立を推進するにあたり、有用な情報が得られた。

## 2. 質疑応答内容 他

- I) 放射線治療においては、地域間格差を是正するための均てん化が重要である一方、高精度放射線治療の実施には高度な技術と知識が求められる。そのため、専門性を集中させた集約化の必要性も指摘された。均てん化と集約化の両立について、どのように考えるか。
- II) 今後、放射線治療の均てん化を進めるためには、どのような取り組みが必要であると考えるか。

## 3. 関連発表の内容

放射線治療における専門技術者の地域偏在状況について、腫瘍医、放射線治療専門技師、医学物理士の地理的分布を二次医療圏単位で評価した。その結果、いずれの専門職も都市部に集中していることが示された。

## 4. 学会参加の感想

本学会には、挑戦と自己成長、研究発表経験を積むことを目的に参加しました。自身の発表では、「スライド作成における手順」や「音読ではなく視読できるスライドづくり」の重要性を学び、聴衆に伝わりやすい発表につながることを理解しました。また、発表方法に関しては「トリガーワードを用いた発表」の有効性を理解しました。スライドに発表のきっかけとなる言葉を入れておくことで、原稿を作成して暗記することなく発表できることを実感し、発表者としての負担を軽減できる方法であると学びました。

シンポジウム「肺がんに対する治療戦略 一放射線治療の役割と展望一」では、山梨大学の大西洋先生のご講演から、手術と放射線治療の比較を通じて放射線治療の利点を学ぶことができました。これまで教科書で学んだ利点に加え、「免疫を維持できること」や「がん細胞を刺激しないこと」も重要な利点であると理解しました。また、広島大学の奥村拓郎先生の「放射線治療計画のピットフォール」では、IMRT の課題として通常照射に比べて低・中線量域の増加や Interplay effect が生じる点を学びました。さらに、肺の線量指標として用いられる V5 や V20 は、IMRT で増加しやすい低・中線量域と関連し、肺障害リスクの予測に重要であることを理解しました。これらの学びは教科書だけでは得られない実践的な知識であり、臨床現場においても極めて重要な内容でした。

今回の学会参加で得られた知見を、今後の研究活動および成果発表に活かし、より質の高い成果の創出に努めてまいります。

## 6. 現地参加がわかる写真

